

# しんでんかいはつ かつやく ひと 新田開発に活躍した人

徳川氏は江戸に幕府を開くと同時に、江戸周辺の開拓を積極的に進めました。江戸の人口増加にともない、食糧である米の増収が重要な課題だったためです。幕府は関東郡代(伊奈備前守忠次)に命じ、利根川・渡良瀬川など関東平野南部の河川の整理、また用水路・排水路の整備、新田開発をおこない穀物の増収を図りました。

ここでは慶長年間(1596～1614)の区内新田開発の開拓者として、三人の武士を紹介したいと思います。

## 宇田川喜兵衛：宇喜新田

宇田川喜兵衛定氏は、天文2年(1533)品川出身の武士で、小田原の後北条氏家臣として、弘治年間(1555～57)小松川に移り住んだといわれています。後北条氏が滅び、徳川氏の関東移封後も小松川に居住しました。

慶長元年(1596)に小松川近くの蘆原の地など三千石を開墾し、その功績により上田一町五反を賜ったことが『新編武蔵風土記稿』「二之江村」の項に記載されています。宇田川氏が開いた新田は、正保年間(1644～1648)の『武蔵田園簿』には「宇喜新田」とあり、元禄検地からは「宇喜田村」となり、更に東西宇喜田村に分村しました。

宇喜新田の開発規模は江戸川区内最大のものでした。他氏は旧姓を名乗ることなく新田開発を行いました。宇田川氏は後北条家臣時代のまま、新田開発に従事しました。これは徳川氏に対して遠慮がなかったことと、伊奈氏の助力が大きかったためだと思われます。

宇田川喜兵衛定氏は晩年「法蓮」と号し、元和6年(1620)に没し源法寺(小松川二丁目)に葬られました。源法寺には宇田川家代々の墓があります。また定氏が隠居した屋敷地に子定次が法蓮寺を建立しました。



源法寺(東小松川二丁目)

## 篠原伊予：伊予新田

しのはら いよ さとみあわのかみよしひろ あんざいいよのかみ  
篠原伊予は里見安房守義弘の家老職で、安西伊予守  
さねもと こうのだいがっせん  
実元と名乗る武士でした。里見氏が国府台合戦で北条  
氏に敗れたのち、小岩に移り農業に従事し、篠原姓を  
いよしんでん  
名乗りました。伊予新田の開発を行い、元禄検地の時  
から「伊予田村」と称しました。

伊予の墓は菩提寺である宝林寺(北小岩三丁目)に  
あります。子孫である西野家所蔵の『西野氏系図』「慶  
長四年四月二日、浄徳居士」条には、「葛飾郡市川ニ  
ライテ伊予新田ヲ開発ス、今ノ伊予田村是也、故ニ其地法輪寺(宝林寺)ニ葬ス」と  
記されています。

伊予の墓の横にある寛永19年(1642)銘の五輪塔も、伊予ゆかりの人物ではないか  
と考えられています。伊予の長男にあたる「浄貞」は伊予新田を離れ、長島村に移  
にしのきゅうざえもん  
住後、西野久左衛門と改名し、開拓者になっています。

## 田島図書：一之江新田

もとは豊臣家の家臣で堀田図書英丈と名乗ったと  
ほったすしよえいじょう  
伝えられています。関ヶ原合戦の後、慶長11年(1606)  
にしいちのえむら たじましようべえ きくう  
に西一之江村大杉の田島庄兵衛に寄寓し、田島図書と  
改名しました。

草原に残っていた可耕地を開拓し、一之江新田の成  
立に尽力しました。その功により、明治維新まで一之  
江新田の代々名主を努めました。田島図書の墓は、一  
族の菩提寺である城立寺(春江二丁目)にあり、寛永5  
じょうりゅうじ  
年(1628)10月に一族の甲冑を埋めて私領を寄進し創建したといわれています。寛永  
20年(1643)12月25日に68歳で没しました。

なお、田島家の屋敷は現存しています。江戸中期の名主屋敷の建築様式を残すも  
のとして、昭和29年(1954)に「一之江名主屋敷」として東京都指定旧跡(昭和33年東  
京都指定史跡に種別変更)となり、昭和56年(1981)1月に江戸川区登録史跡に指定さ  
れ、現在は江戸川区が所有しています。



伊予の墓(左)



図書の墓